

# Voice of Fukushima Friends

平成27年度3次隊  
青年海外協力隊  
氏名：藤川理恵  
職種：看護師  
派遣国：モンゴル

## Fukushima からのメッセージ、Fukushima へのメッセージ

私は、徳島県出身で、JICA の派遣前訓練で初めて福島県に来させてもらいました。そのため、被災地に行かせてもらったのも初めてでした。東日本大震災発生時は、大阪で働いており、テレビ等の放送で現場の人たちやボランティアの方々が復興に向けて頑張っていることを遠くからみていることしかできませんでした。マスメディア等では、復興は進んでいるという声を聞く一方で、被災した人々が家に帰れなかったり、仕事を失ったり、苦しむ声も耳にしていました。

今回、見学に行かせてもらった、いわき市の復興まちづくりでは、県内だけでなく、九州からも応援にかけつけた職員の方と協力しながら、海辺に住んでいた方々が元の土地に帰ってこられるように、再度津波が来ても、被害が少なくなるように、堤防や土地の整備をされており、津波被害の面影を感じさせない復興状況に現場の人々の努力を感じました。被災前のいわき市沿岸を訪れたことはないですが、残っている家も少ないせいか、閑散とした印象があったため、早く復興まちづくりが完成し、安心して住民の方々が戻ってこられることができればいいなと思いました。

アクアマリン福島では、なぜ震災から4ヶ月で復興できたのかが、地元の方々の水族館に対する思いと、館長の適切な判断や、それについていった職員の方々の努力、全国各地からの協力があつたことを知り、とても感動しました。実際に水族館を見学させてもらい、全ての生物や、水槽、建物にスタッフの方々や、被災された方々、復興に協力したことの方々の思いを感じながら、普段、水族館

を見学するのは違う思いで見させてもらいました。みんなが苦しい時だからこそ、みんなの希望になるものが大切なのだと実感しました。

米の全量全袋検査では、想像していた以上の米を手作業で検査されており、訓練所で安心・安全な米を食べられることに改めて感謝しました。また、農家の方々も被災後から、検査を通さなければ売れないという精神的、身体的負担が大きいのではないかと感じました。放射線はみえないからこそ、何で？や、いつまで？という思いもより強くなるのではないかと感じました。

私たち、JICA ボランティアにできることは、任地で、被災地の正しい知識を伝えることだと強く感じました。また、福島県が頑張っているということに、後押しされました。任地で有意義な活動をし、日本や、福島を含む東北の正しい事実が伝えられるように、残りの訓練所での訓練と2年の任期を頑張りたいと思いました。貴重な体験をありがとうございました。